

巻頭
言

馬鹿を休み休み



会長 山崎 學

今日は8月15日終戦記念日である。世間では相も変わらず不要不急の外出は慎んで、お盆の帰省自粛が要請されている。長い梅雨が明けたら熱中症、水の事故が起きる酷暑である。自粛生活もだいぶ慣れてきたが終わりの見えない日々に飽きてきた。でも外出し感染して職場、家族に迷惑をかけることを考えるといたしかたなく、多少涼しくなった夕刻に畑いじりでストレスを発散する毎日である。

マスコミは日々の新規感染者数を報道して国民の不安を煽る。煽られた国民は、得意顔で解説する自称専門家・有識者の意見に惑わされて不安になる。今回の新型コロナウイルス（武漢ウイルス）騒動の怖さは世界的なパニック状態が作り出されたことである。

診断手段としてのPCR検査にしても各社から出されている注意書きによれば、あくまでも研究用試薬であり、臨床診断手段としてはふさわしくないと記載されている。さらにインフルエンザA、インフルエンザB、RSウイルス、アデノウイルス、パラインフルエンザ、マイコプラズマ、クラミジアといった疾患でも陽性と判断された場合があったと報告されている。

こうなってくると新宿歌舞伎町のホストクラブ騒ぎはかなり怪しい陽性者がいてもおかしくない。しかも休業補償10万円、陽性者は専用のホテル住まいに加えて、食費は補助上限額1日4,500円（なぜか病院の食事療養費は1日1,960円）が保障されている。

重症化のリスクは高齢者が高いとされているが、高齢者の重症化リスクは肺炎をはじめとして他の疾患でも同じである。そもそも日本では年間ががん37万人、肺炎10万人、風呂関連死1.7万人、交通事故3,500人、お餅窒息1,300人、転倒転落8,030人、インフルエンザ3,000人、自殺2万人（失業率が1%上がると1,000～2,000人増える）死亡しているが、コロナ関連死は1,000人である。

重症化予防の薬剤はいくつか開発されたが、決定的な薬剤が開発されていない現在、ワクチン開発に注目が集まっている。日本政府も外国メーカー数社と開発に成功した時点で購入する契約を結んでいる。しかし、新型コロナウイルスは世界中で感染を繰り返しながら、弱毒化して、宿主に致命的な影響を与えないように進化しているとも言われ、このウイルスの進化速度とワクチ

ン製造のタイムラグが気になる場所である。また、感染者の抗体価が4ヶ月で消えるといった報告があることから考えると、仮にワクチンが出来たとしても追加接種を繰り返す必要に迫られる気がするし、接種による有害事象も心配である。

政府はGDP30%減少を覚悟して緊急事態宣言を出したが、2021年3月期の決算は世界的に落ち込み、経済恐慌に発展する可能性も秘めている。企業が景気の先行きを予想して非正規労働者から削減し、正社員の雇用維持に走るの当然の姿だと思うが、派遣切りはけしからんとマスコミは大騒ぎをする。非正規労働者を含めて雇用継続して本体が倒産したら元も子もない。これから国民の消費意欲が大きく冷え込んだ中で各企業は生き残りをかけた生存競争を繰り広げていくことになる。

医療業界も感染拡大を恐れた外来受診患者の大幅な減少が病床稼働率の低下につながり、かつてない厳しい経営状態に置かれている。また景気悪化による企業・国民の所得減少は保険料の減収につながり、健保組合の経営を直撃し国民皆保険制度維持のマイナス要因になってくる。

政府、マスコミ含めて無症状の感染者を含めた新規感染者数を報道して不安を煽るのはそろそろやめにしてほしい。新型コロナウイルスは侮ってはいけないが、必要以上に恐怖を煽って国民に不安を植え付けることの方が、はるかに国家国民にとって大きな弊害となるような気がしてならない。